

# 要 望 書

「みらい」の存続と北極域研究船について

青 森 県 む つ 市  
青 森 県 む つ 市 議 会

## 「みらい」の存続と北極域研究船について

貴機構におかれましては、市政運営並びに議会運営に御理解と御協力を賜り厚く御礼申し上げますとともに、毎年、むつ海洋・環境科学シンポジウムを開催されるなど、科学技術の理解促進と地域振興に御尽力を賜り、衷心より感謝を申し上げます。

また、1997年に原子力船「むつ」から生まれ変わった海洋地球研究船「みらい」がむつ市関根浜港を母港として活動し、国際的にも高い研究成果を挙げられていることは、地域住民の大きな誇りとなっており、これまでの活動に敬意を表するものであります。

さて、むつ市は、北は津軽海峡、南は陸奥湾、西は平館海峡と三方を海に面し、明治35年の海軍水雷団設置以来、軍港として発展し、現在引き継がれている海上自衛隊大湊地方総監部や旧原子力船「むつ」の母港を有するなど、海と生きる「まさかり」の大地に抱かれ、歩みを進めてまいりました。

また、当市には、貴機構のむつ研究所をはじめ、海洋研究等に関する幅広い分野での研究拠点の集積が図られており、最上位計画となる「むつ市総合経営計画」においても、海洋科学研究拠点に係る研究活動環境の充実として主要施策に位置づけております。

近年では、むつ市立関根小学校及び正津川小学校と沖縄県名護市の小学校との交流事業及び貴機構と青森県立むつ工業高等学校との共同研究など、地域の子供達に海洋研究に携わる機会を提供いただいております。心より感謝を申し上げます。

さらに、当市議会では、全国市議会議長会に設置された「海洋プ

プラスチックをはじめとするプラスチックごみ問題に関する特別委員会」に委員として参加し、同問題にも積極的に取り組んでおり、世界の海洋を舞台にした貴機構の活動についても、最大限支援させていただきたいと考えております。

つきましては、当市を母港とする「みらい」は、世界最大級の海洋観測船として無寄港で広域、長期間の航行が可能なことや、荒天時の航行にも優れており、今後も更なる活躍が期待されますことから、その活動を存続していただきますよう要望いたします。

また、北極域研究船につきましては、むつ研究所が貴機構最北の施設である北極域研究の拠点として相応しい立地であることに加え、当市のこれまで、「みらい」の母港としての実績及び海洋研究関連施設が整備されている地域性に加え、長年にわたり貴機構とともに歩んできた歴史から生まれた海洋研究に対する市民の理解と関心の高さ等を御高配いただき、当市を母港として研究活動を展開していただきますよう併せて要望いたします。

令和5年1月26日

むつ市長 宮下 宗一郎

むつ市議会議長 大瀧 次男